

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Sunscreen use and the risk for melanoma: a quantitative review.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MM-CQ1-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID	14678916	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Intern Med	
	雑誌 ID		
	巻	139	
	号	12	
	ページ	966-78	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2003	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Dennis LK	アイオワ大学
	その他著者 1	Beane Freeman LE	同上
	その他著者 2	VanBeek MJ	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	サンスクリーンの使用がメラノーマの発生に与える影響を明らかにする
	データソース	1996～2003年に Medline に収載された論文
	研究の選択	メラノーマ発症前のサンスクリーン使用を報告した分析的な研究
	データ抽出	2人の著者が独立してデータを抽出
	主な結果	標準的なメタアナリシスの手法により、文献ごとのメラノーマ発症の OR を集積。その結果、18 の臨床研究におけるメラノーマの発症率はサンスクリーンの恒常的な使用により影響を受けていなかった。サンスクリーンの使用頻度や使用年数もメラノーマの発症率に影響を与えていなかった。
	結論	恒常的なサンスクリーンの使用はメラノーマの発症率に影響を与えない。新しい組成のサンスクリーンの使用による効果の評価には今後さらに数十年が必要である。
	備考	文献整理番号：メラノーマ Q1 文献番号 3
レビューコメント	レビューワー氏名	高田 実
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (I) サンスクリーン使用の影響はスキントypeにより大きく異なるので本研究の解釈には注意が必要。本研究でもスキントype I、II の人々に関する結果はほぼ一定であるが、日本人のようなスキントype III、IV の人々に関する結果はばらつきがある。また、サンスクリーンについては、UVA に対する防御効果や落ちにくさなどその予防効果に影響を与える多くの要因があり、今後の検討が必要。